

2017 年度



平和堂財団環境保全活動助成事業

# 夏原グラント

<http://natsuhara-g.com>

# 活動報告書



琵琶湖およびその流域の自然環境の保全活動を応援します

主催 公益財団法人 平和堂財団

協賛 株式会社 平和堂

## ごあいさつ

公益財団法人平和堂財団は、教育・文化・体育・環境・児童福祉の5分野で助成活動を行っています。こうした5分野の中でも、特に、琵琶湖を抱える滋賀県として環境分野には重点的に取り組んでおり、公益財団法人である平和堂財団が主催する環境保全活動の助成事業「夏原グラント」は、環境保全活動に対する中心的な事業です。

6年目を迎えた2017年度は、これまでの助成に加え、これを機に団体を立ち上げて活動を始める場合や小規模で継続的な活動に対してファーストステップ助成を始めました。併せて53団体に助成を受けていただきました。単年度助成に終わらないように、最長3年間の継続助成をすることで団体の活動の活性化を目指すとともに、基盤強化への取り組みを行うステップアップ助成にも引き続き取り組んできました。

また、助成事業に関連して例年通り専門家による「市民環境講座」の開催に加え、助成1年目の団体の交流会も開催しました。

このたび、2017年度の助成事業が終了し、助成を受けていただいた団体からの活動報告をまとめた「平和堂財団環境助成金事業 夏原グラント活動報告書」が完成しました。滋賀県・京都府内の環境に関わる多様な活動について、本冊子でご報告させていただいておりますのでご高覧いただければ幸いです。

公益財団法人平和堂財団  
理事長 夏原 平和



## 目次

助成金の概要、選考基準、スケジュール、選考委員	1P
応募・採択事業数、説明会と事前相談会、市民環境講座	2P
公式サイト、夏原グラントの特徴、贈呈式記念写真	3P
2017年度 助成事業・団体一覧表	4～5P
事業報告 1年目 18団体	6～11P
事業報告 2年目 10団体	12～15P
交流会、ロゴマークとリンクバナーの紹介	15P
事業報告 3年目 12団体	16～19P
事業報告 ステップアップ2団体	20P
表紙・裏表紙の写真の紹介	20P
表彰された団体の紹介	21P

## 助成金の概要

### ●名称

平和堂財団環境保全活動助成事業  
「夏原グラント」

※グラント「grant」＝助成金

### ●対象となる事業

この助成金の対象となる事業は、下の(1)～(3)のもので、内容が先進的で他の団体のモデルとなるものです。

- (1) 環境保全に関する実践活動  
広く市民の参加を得て行い、活動の普及が期待される水質保全、森林・里山保全、生物の多様性維持、その他自然環境の保全に関する実践活動
- (2) 環境保全に関する教育啓発・人材育成活動  
広く市民を対象とする環境保全に関するイベントの実施、学習会の開催、その他環境保全に関する啓発、知識の普及、人材育成の活動
- (3) 環境保全に関する調査研究活動  
(1) または (2) の活動推進に資する調査研究活動。ただし、調査研究活動は実践活動に結びつくものとし、学術的な活動は対象としません。

### ●一般助成金の対象となる団体

事務所を滋賀県内・京都府内に有するか、または滋賀県内および京都府内で活動している環境保全活動に取り組んでいるNPO法人、市民活動団体、または学生団体

### ●ファーストステップ助成金の対象となる団体

- (1) 立ち上げ支援  
これを機に団体を立ち上げ活動を始める
- (2) 小規模事業の支援  
今まで継続してきた事業で応募  
※採択となった団体はファーストステップ助成終了後、夏原グラント一般助成への応募が要件

### ●助成金の額

- (1) 一般助成金
  - ① NPO法人、市民活動団体  
1件あたり上限 50万円
  - ② 学生団体  
1件あたり上限 30万円
- (2) ファーストステップ事業助成金  
1件あたり上限 10万円

## 選考基準

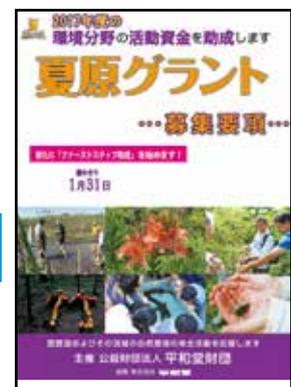
- (1) 滋賀県内・京都府内の環境保全や地域創造に寄与すると認められること。
- (2) 他の団体のモデルとなるような先進的なテーマ設定や事業展開が期待されること。
- (3) 県民・府民の自主的な環境保全活動につながる波及効果が期待されるなど、成果が広く市民に還元されること。
- (4) 適切かつ効果的な事業手法がとられていること。

## スケジュール

2016年	11月26日	説明会・事前相談会の開始
	12月1日	募集開始
2017年	1月31日	募集締め切り
	2月27日	第1次選考会
	3月19日	第2次選考会・公開プレゼンテーション
	4月15日	贈呈式（クサツエストピアホテル）
	4月1日から翌年3月31日まで	助成金事業実施期間

## 選考委員

仁連 孝昭	滋賀県立大学 名誉教授
内田 香奈	きょうとNPOセンター 副統括責任者
西野 麻知子	びわこ成蹊スポーツ大学 教授
脇田 健一	龍谷大学 教授
辻村 琴美	コミュニティ・アーキテクトネットワーク



2017年度 募集要項

(敬称略・順不同・2017年度選考当時)

## 応募・採択事業数

1年目事業応募数	25事業	うち採択 18事業
2・3年目事業応募数	24事業	うち採択 22事業
ステップアップ応募数(1・2年目)	2事業	うち採択 2事業
ファーストステップ応募数	11事業	うち採択 11事業
助成総額		14,887,000円

## 説明会と事前相談会

「夏原グラント」への応募を考えている団体のみなさまを対象に、説明会と事前相談会を同日開催しました。説明会では応募に関する説明と質問にお答えし、終了後は個別の相談に対応をしています。会場では参加者のみなさまから、応募書類の書き方、アピールできる事業企画書の書き方のポイントや、予算書の書き方、公開プレゼンテーションのコツなどについての質問がありました。これらの相談には夏原グラントの運営を担っている、しがNPOセンターのスタッフがあたっています。

## ●開催日(すべて2016年)

11月26日(土)	いずみホール	(木津川市)
11月28日(月)	草津市立まちづくりセンター	(草津市)
11月29日(火)	あまが池プラザ	(守山市)
12月2日(金)	Flag 三条/きょうとNPOセンター事務所	(京都市)
12月10日(土)	宇治市文化センター	(宇治市)
12月11日(日)	臨湖	(長浜市)

## 市民環境講座

この講座は助成団体だけでなく、保全活動に取り組んでいる団体やこれから取り組んでいこうとする方を対象に、オープン開催としています。生態系に配慮した環境保全活動の「これから」と「組織運営」について、夏原グラント選考委員に講師に講師を務めていただきました。

## ●第1回 5月13日(土)

「これからの環境保全活動」

講師：仁連孝昭さん(滋賀県立大学 名誉教授)  
私たちの置かれている状況を地球規模で見るとお話から始まり、最後は「独りよがりにならない、楽しめる活動を組み立てる。時には立ち止まって、広い視野で活動を見直してみる。そのためにも、夏原グラントのネットワークを活用してください」と締めくくられました。

## ●第2回 6月4日(日)

「環境保全活動の事例にみる組織運営のポイント」

講師：内田香奈さん  
(きょうとNPOセンター 副統括責任者)  
市民活動のビジョンとミッションについてのお話とワークを交え、各自の団体のミッションや強みなど見直す時間となりました。



## 公式サイト

- 夏原グラント公式サイト  
<http://www.natsuhara-g.com/>

夏原グラントの概要や助成の実績など、詳しく掲載しています。

応募前、また、事業実施中でのQ&Aも掲載するなど、応募前から終了後までいねいな対応を心がけています。募集要項、申請書類、採択団体となってから使用していただくロゴマークなどがダウンロードできます。

プロジェクト活動レポートのコーナーでは、事務局スタッフが活動の現場を取材させていただき、豊富な写真とともに紹介しています。

ぜひアクセスしてください。携帯電話・スマートフォンでも見ていただけます。



## 夏原グラントの特徴

夏原グラントは、単なる助成金だけの支援ではありません。

### (1) 学びの場の提供

毎年、市民環境講座を開催し、助成先の団体だけでなく環境保全に興味のある方にも参加していただいています。講師は夏原グラント選考委員で、内容は環境保全の基礎や最新の知識、組織運営に関するワークショップなどです。講座を受講することで活動や組織のブラッシュアップをしていただく目的です。

### (2) 交流機会の提供

各団体が他の地域や違う分野の活動について情報交換を行う機会を提供することにより、ネットワークを広げていただけます。

### (3) 事務局サポート

しがNPOセンターの強みを活かして事業実施中の団体からのさまざまな相談を受けアドバイスを行っています。また、現地を訪問し、取材して「活動レポート」をサイトに公開することで、事業や団体の情報発信を行っています。

## 贈呈式記念写真



「夏原グラント」第6回助成金贈呈記念交流会 2017年4月15日 クサツエストピアホテル

## 2017 年度採択事業紹介

2017 年度に夏原グラントの助成を受けた団体の活動をご紹介します。「夏原グラントで実施した事業の紹介」「環境や地域への貢献」「助成金が活きたと思う点」の3つについてお聞きしました。

1 年目 18 事業、2 年目 10 事業、3 年目 12 事業、ステップアップ（1 年目と 2 年目）2 事業の計 42 事業を掲載しています。



※右端の「P」欄は掲載ページ

## 2017 年度助成事業・団体一覧

## 1 年目 18 事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	里山の保全と遊歩道の維持管理	かぶと山を守る会	6
滋賀	古道再生による里山の保全	番場の歴史を知り明日を考える会	6
滋賀	里山保全活動	富之郷里山クラブ	6
滋賀	琵琶湖とともに ～沖島『エコの島・安心して暮らせる島』に～	認定特定非営利活動法人 菜の花プロジェクトネットワーク	7
滋賀	豊かな水の恵みを活かそう	のりがわエコ水車の会	7
滋賀	蛇砂川をきれいにし、ホタルの増殖と ホンモロコの遡上・育成を促進する事業	金田学区まちづくり協議会	7
滋賀	甲賀木の駅プロジェクト 「森林を愛する人を増やそう計画！！」	甲賀木の駅プロジェクト運営委員会	8
滋賀	スギ・ヒノキの人工林から命を育む自然の森へ 琵琶湖水源の森づくりプロジェクト	日本熊森協会滋賀県支部	8
滋賀	休耕農地を活用し、地域に自生し絶滅の恐れのある 花菖蒲・杜若・メダカ・タガメ等、水生動植物の保護育成園の整備事業	滋賀県高島市今津町浜分 浜分環境クラブ (通称：やなちゃんクラブ)	8
滋賀	野性傷病鳥獣の救護追跡事業	放鳥's	9
京都	太陽熱回収用へどろヒートポンプの開発	認定特定非営利活動法人 ブルーシー阿蘇	9
京都	京都・美山千年の川プロジェクト～命溢れる川づくり～	特定非営利活動法人 芦生自然学校	9
京都	市民共同発電所「おひさま発電所」設置施設と 共に進める環境学習	認定特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド	10
京都	森のようちえん おやこの会	森のようちえん どんご園	10
京都	北山保全活動	認定特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 IVUSA 京都	10
京都	里山農園周辺環境整備事業	特定非営利活動法人 やましろ里山の会	11
京都	京都縦貫自動車道西代防災基地の緑化活動	乙訓の自然を守る会	11
京都	竹の魅力発信基地の創設	特定非営利活動法人 加茂女	11

## 2年目 10事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	大谷川周辺に生息するオオサンショウウオの生態系保全活動	古橋のオオサンショウウオを守る会	12
滋賀	竹生島タブノキ保全プロジェクト	びわ地域づくり協議会	12
滋賀	北近江びわこ見守り隊	湖国ひとまちネット	12
滋賀	Re 梵（リボーン）大作戦～梵釈寺から始まる里山の再生～	特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会	13
滋賀	家棟川の生態回廊の再生ービワマスの遡上する川をつくる	特定非営利活動法人 家棟川流域観光船	13
滋賀	野洲川北流跡自然の森創生プロジェクト	やす緑のひろば	13
滋賀	水遊び体験を取り戻すー子どもは川の子プロジェクトー	特定非営利活動法人 子どもと川とまちのフォーラム	14
京都	伏見稲荷大社 理想の森づくり	特定非営利活動法人 社叢学会	14
京都	協働によるふるさと自然環境保全を図るための基礎資料調査	エコパートナーシップうじたわら	14
京都	21世紀の「鹿背山ものがたり」をつくろう ～里山と都市の好循環を目指して	鹿背山元気プロジェクト	15

## 3年目 12事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	余呉湖周辺の保全・緑化の推進	余呉地域づくり協議会	16
滋賀	松尾寺山の里山整備活用事業	松尾寺山登山道保存会	16
滋賀	里山保全・整備活動	総山管理委員会	16
滋賀	日本百名城「観音寺城石垣」整備プロジェクト	近江八幡市豊かな杜づくり隊	17
滋賀	未来のびわ湖人育成のための学習支援事業	滋賀大学「環境学習支援士」会	17
滋賀	ぼてじゃこトラスト次世代人材育成事業	ぼてじゃこトラスト	17
滋賀	びわ湖流域赤シソ栽培ネットワーキング事業 “Team Hira Perilla”	一般社団法人 比良里山クラブ	18
滋賀	未来に続く生物多様性の森育成事業	びわ湖りす森倶楽部	18
京都	森林・林業の多角的な体験・学習を通じた人材育成	特定非営利活動法人 京都・森と住まい百年の会	18
京都	鴨川生き物調査	特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都	19
京都	遊休・休耕農地や放置森林等の再生・管理事業	特定非営利活動法人 オーガニック土の塾	19
京都	西山古道の自然環境保全に関する実践活動	特定非営利活動法人 京おとくに・街おこしネットワーク	19

## ステップアップ1年目 1事業

地域	事業名	団体名	P
京都	いかだに乗ってみよう ～山・川・まちのつながりの再生～	特定非営利活動法人 プロジェクト保津川	20

## ステップアップ2年目 1事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	山門水源の森の生物多様性の保全と獣害対策	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	20

## 里山の保全と遊歩道の維持管理

## かぶと山を守る会

活動場所 滋賀県米原市多和田地先 (通称かぶと山)  
所在地 滋賀県米原市多和田 1471  
設立年 1983年  
会員数 52名  
連絡先 090-2356-0070、uf7yahzn@zb.ztv.ne.jp

### 夏原グラントで実施した事業の紹介

かぶと山には、頂上付近で戦時中の食糧難時にサツマイモの栽培をされてきた平地があります。その後放置され、背丈以上のササの密集地でした。そのササがグランドカバーの役目を果たし、雑木一本育っていません。また、長年人の手が入ってなくフジツルの天国で、数本の杉が立ち枯れし、杉の大木3本がササの中に倒木し腐食していた状態でした。長年の懸案だったこの地のササを刈り取ることで、日当たりや風通しが良くなることで動植物の生育を期待し、豊かな里山になるよう会員一同頑張りました。

### 環境や地域への貢献

地域住民有志のボランティア団体です。30歳代から70歳代の幅広い会員層と強制依頼はなく自主的参加が特徴です。少子高齢化の進む当地域において、この団結力を作業のみならず地域の発展と子どもや高齢者の見守りに生かしていきたいと考えています。

### 助成金が活きたと思う点

標高308mの里山での作業です。林道はなく資機材すべて人の手で現地まで運ばなくてはなりません。今年度助成金にて軽いチェーンソーを購入させていただき、おおいに助かりました。



## 古道再生による里山の保全

## 番場の歴史を知り明日を考える会

活動場所 滋賀県米原市、彦根市、多賀町 (霊仙山麓)  
所在地 滋賀県米原市番場 0982  
設立年 1992年  
会員数 20名  
連絡先 090-5047-0153、mine-izu@mx.bw.dream.jp  
HP

### 夏原グラントで実施した事業の紹介

米原市・彦根市・多賀町にまたがる霊仙山麓の里山は、自然や歴史の豊富な地域ですが、今は廃村が多く訪れる人も少なく荒廃の危機にあります。この地域の古道を再生し、安全に散策できるトレッキングコースを整備しています。2016年度は4回のトレッキング、シンポジウムの開催やマップの作成を行いました。中高年の方も多く訪れていただき霊仙山麓の素晴らしさと保全の必要性を感じてもらいました。

### 環境や地域への貢献

長年忘れていられた古道を再生し歩くことで、先人の里山の保全に対する苦勞を偲ぶことができ、今の私たちに何が出来るかを考える機会となりました。これを機会にこの地域を歩く人も増え古道がよみがえり活性化の兆しがみえてきました。

### 助成金が活きたと思う点

1人ではなかなか歩けない霊仙山麓をトレッキングで歩き、シンポジウムや講演会でこの地域の環境の現状を知ってもらうことができ、今後の活動への弾みとなりました。行政機関に対しても共催や後援による支援や担当者の参加でこの地域の課題について認識を深めてもらいました。



## 里山保全活動

## 富之郷里山クラブ

活動場所 滋賀県犬上郡多賀町富之尾字熟谷地先  
所在地 滋賀県彦根市平田町 808  
設立年 2006年  
会員数 20名  
連絡先 富之郷里山クラブ事務局  
T:0749-26-2299、F:0749-24-3422、HP

### 夏原グラントで実施した事業の紹介

夏原グラントの助成を受け、貴重植物を守るための保護柵を購入、設置しました。貴重植物は、ササユリ、キキョウ、オケラがあり、これらをノウサギや鹿の食害から守ることが目的です。市販の金網で自作した保護柵はありましたが、効果が充分でなかったため、形状、構造が獣害防止用に工夫された保護柵材料を購入し、6月に設置しました。オケラは前年の数倍に増えており、効果は充分に出ています。

### 環境や地域への貢献

12年前に富之郷里山クラブを立ち上げ、荒廃した里山の再生を図るため、里山保全を開始しました。現在も活動を継続し、森林の健全化と貴重植物の保護に協力しています。

### 助成金が活きたと思う点

助成金を活用し、高性能の保護柵材料を購入、設置したことにより、オケラ等貴重植物の保護に役立てることができました。



**琵琶湖とともに～沖島** 特定非営利活動法人 **「エコの島・安心して暮らせる島」に～ 菜の花プロジェクトネットワーク**

活動場所 滋賀県から全国へ。  
 所在地 韓国・中国・チェルノブイリ等 海外でも展開  
 所在地 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 3  
 設立年 2006 年  
 会員数 500 人  
 連絡先 電話：0748-46-4730, webmaster@nanohana.gr.jp  
 HP Facebook



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

“エコの島”に向け、身近で楽しい、しかも実践可能な取組み「沖島菜の花プロジェクト」を定着させます。廃食油の回収、BDF学習、BDFイルミネーション、菜種なたねまき等を通し、年毎に島民の認知度が高まっています。赤ちゃんからお年寄りまで、安心して暮らせる実感をどう高めるか？食べること（島内の食材チェック、三輪車市でのちっちゃな商い）、島民が集い、泊まれる場づくり（空き家の利用）等新たな取組みへの方向性が出てきました。

**環境や地域への貢献**

沖島ってごみの島、の実態から“循環”の視点で見直し、気持ちの良い島になって来たねと、感じてもらえるように、少しずつ島民に変化が見えはじめています。BDFや地元食材利用を優先することも、CO2削減になるんだねと話しに出てくるようになってきました。沖島という閉じられた空間が循環、再生エネルギーのモデル地域にと、将来の夢も語りはじめています。

**助成金が活きたと思う点**

高校生の出前学習、講師を招いての学習会、イルミネーションのバージョンアップ、島民の先進地視察等、どれをとっても助成金が生きています。

**豊かな水の恵みを活かそう** のとがわエコ水車の会

活動場所 滋賀県東近江市能登川地区  
 所在地 滋賀県東近江市猪子町  
 設立年 2009 年  
 会員数 7 人  
 連絡先 のとがわエコ水車の会事務局 090-2288-8663(今井)



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

巷にあふれる「自転車の放棄」が気になり放棄自転車の再利用による水車発電で田んぼの夜道に灯りをつけたい、との発想で自転車水車づくりをはじめました。即ち「自転車ライトを水力で灯そう」という発想です。はじめは猪子町の用水路で回していましたが、雨の森芳洲庵前の小川や近江八幡市金剛町の神社横の小川に設置して灯りを灯すことができ喜ばれました。能登川地区では小川町の自噴井戸で回すことも実現しました。

**環境や地域への貢献**

田んぼ道や小川の辺りには、あまり電源がなく、電気を引こうとすると大掛かりな事業になってしまいますが、この自転車水車ですと、電線を引くことなく、その場で電気を得られます。また、水力発電ですので自然に害を及ぼすこともありません。

**助成金が活きたと思う点**

夏原グラントの「助成金」をいただけるということは、自分たちの活動が社会に認められた証になり、活動に自信が生まれ、他団体との交流にも大きな後ろ盾となります。八幡工業高校の生徒さん達と共同研究ができたのも、このおかげだと、ありがたく思っています。

**蛇砂川をきれいにし、ホタルの増殖と** **金田学区まちづくり協議会**  
**ホンモロコの遡上・育成を促進する事業**

活動場所 蛇砂川  
 所在地 滋賀県近江八幡市金剛寺町 375  
 金田コミュニティセンター  
 設立年 2010 年  
 会員数 3,630 世帯  
 連絡先 金田コミュニティセンター  
 0748-37-7255,FAX:0748-37-7277  
 HP



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

私たちは、近江八幡市東部を南北に流れる 1 級河川蛇砂川の downstream で、田舟 2 艘、ボート 1 艘に乗り川岸に滞留しているペットボトルやビニールくず等を網を使つての清掃活動を年間大規模・小規模の計 6 回行っています。この活動により蛇砂川をきれいにし、昔は乱舞していた蛍を増加させ、絶滅状態だった西の湖からのホンモロコの遡上・育成を促進しようとしています。春期にホタルの幼虫のえさのカワニナ（小さな巻き貝）を網で捕って幼虫のいる箇所にはばらまくのです。

**環境や地域への貢献**

河川はきれいになりホンモロコの遡上にはは確実に増えていますが、ホタルは今も 30 匹程度で絶滅が心配です。次年度には支流水路に「ホタルの宿」を新設します。活動は新聞、地元テレビ、市広報でも取り上げられ、住民の間で話題になっていて、趣旨、大切さの意識は高まっていると感じています。

**助成金が活きたと思う点**

舟に乗っての作業への危険性から、ライフジャケット 35 着を購入しました。また、昨秋の台風で田舟が 2 艘とも陸に座礁、1 艘が破損しましたが、無事に移動し修理できました。

**甲賀木の駅プロジェクト** 「森林を愛する人を増やそう計画！！」 **甲賀木の駅プロジェクト運営委員会**

活動場所 滋賀県甲賀市甲賀町一円  
 所在地 滋賀県甲賀市甲賀町相模 173-1 大原自治振興会内  
 設立年 2016年  
 会員数 木材搬出登録会員 44名 店舗協力会員 20店舗  
 連絡先 forest@koka-kinoeki.org HP Facebook



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

私達は、森の再生資源である木材、特に間伐材の販売収入を原資に地域通貨「モリ券」を使って“チェーンソーと軽トラで山を元気に！町を元気に！”森林環境保全と地域振興を推進する活動を行っています。今年から新規事業で、チェーンソー安全技術講習会を開催しています。これまでの活動で培った技術を地域の人に伝え、一人でも多く山を守る人材の育成が、未来につながる環境保全活動と考えています。また、森林について理解してくれる人を増やすために、広く一般の方を対象に里山散策や上下流連携の森づくり、竹の利用を楽しみながら考える竹祭り等たくさんのイベントを他の団体と共催や交流しながら実施しました。

**環境や地域への貢献**

間伐・竹林整備等による森林環境保全、木材利用によるカーボンオフセット、環境への理解者の育成、チェーンソーを使える人材の育成等環境や地域に貢献していると思います。

**助成金が活きたと思う点**

人材育成は投資事業です。助成いただいたおかげでこれまでの活動を続けながら人材育成事業を行うことができました。

新規採択事業の紹介

**スギ・ヒノキの人工林から命を育む自然の森へ 琵琶湖水源の森づくりプロジェクト** **日本熊森協会滋賀県支部**

活動場所 滋賀県高島市麻生林  
 所在地 滋賀県大津市  
 設立年 2004年  
 会員数 約460名  
 連絡先 090-2011-5530, kumamorishiga@yahoo.co.jp



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

鹿食害防除の第一人者「高柳敦氏」をお迎えして講演会を開催しました。鹿の食害は皆さん大きな悩みで、山林所有者のみならず農業をされている方からも活発にご質問をいただきました。後日、実際に鹿防除柵の設置講習会に参加し、絶対に鹿に入れない柵に感服しました。生態系のバランスが崩れると自然環境が修復できなくなり、動物も人も困る事になります。鹿の増加対策は捕獲と防除の二本立て。山の植生回復ができるなら動物と人の共生もできるはずですが、500年後の未来にどんな山であってほしいか、今できることをやっていくしかありません。

**環境や地域への貢献**

環境出前学習を小学校4校で実施しました。子どもたちが熱心に質問したり山へ関心を持ってくれました。「やまのこ」の事前学習としてのプログラムですが、来年度は自然体験も加えて楽しんでもらおうと計画しています。

**助成金が活きたと思う点**

麻生林での活動が、専門家の先生に教えていただくことで様々な可能性が開けてきました。必要な事を必要な時期に学べた事が一番の収穫でした。

**休耕農地を活用し、地域に自生し絶滅の恐れのある 花菖蒲・杜若・メダカ・タガメ等、水生動植物の保護育成園の整備事業** **浜分環境クラブ (通称：ヤナちゃんクラブ)**

活動場所 滋賀県高島市今津町浜分  
 所在地 滋賀県高島市今津町浜分  
 設立年 2014年  
 会員数 約10名  
 連絡先 〒520-1604 滋賀県高島市今津町浜分 331



**夏原グラントで実施した事業の紹介**

休耕田が荒地と化していましたが、助成により花菖蒲やアジサイなどを觀賞できる場として整備し、集会所に面する立地条件のよさから住民交流の拠点となりました。また、地域に自生し絶滅が危惧される植物や水生昆虫などの保護・育成園を造成しています。

**環境や地域への貢献**

開花期には地域住民交流の場となり、県内外の親族・知人・愛好者が多数来訪するようになり、地域が活性化し、休耕田の有効利用モデルとして紹介できるようになりました。

高齢社会の地域で相互交流の活発化は高齢者見守り活動の発展につながっています。

**助成金が活きたと思う点**

助成をうけ、住民が環境整備に活動する意識を向上させました。自己資金だけでは整備に長期間を必要とし内容も満足できるものではなかったのですが、整備可能な金額の助成を受け、多くの来訪者の受け入れが可能となり、地域観光に役立つようになりました。

## 野生傷病鳥獣の救護追跡事業

放鳥's

活動場所 滋賀県高島市  
所在地 滋賀県高島市  
設立年 2012 年  
会員数 17 名  
連絡先 houchoooooz@gmail.com  
HP Facebook Twitter



### 夏原グラントで実施した事業の紹介

交通事故などの人為的な要因で保護された野生鳥獣 16 個体の治療・リハビリを実施し、鳥類 8 個体、タヌキ 1 個体を野生に返しました。その際の発信機等を利用した追跡により、野生復帰後の行動を調査し、救護手段と救護活動そのものの有効性を確認しました。

### 環境や地域への貢献

絶滅危惧種のサシバ 3 個体を野生復帰させたことは、生物多様性保全に貢献できたと考えています。また、放野後の追跡等で得られた情報は、今後の希少種救護へと活かすことができます。加えて、放野後の目撃情報募集のためのチラシを配布したり、S N S で情報発信したりすることで、多くの人にその地域の生態系に対する感心を持ってもらうことに繋がりました。

### 助成金が活きたと思う点

費用に合わせた治療・リハビリ・追跡ではなく、保護された個体に合わせた活動ができたことで、野生復帰率と復帰後生存率の向上に繋がりました。このリハビリ中に得られた画像や全国でも例のない方法の選択と記録は、国内の傷病鳥獣救護の発展に大いに役立つことが予想されます。

## 太陽熱回収用へどろヒートポンプの開発

認定特定非営利活動法人 ブルーシー阿蘇

活動場所 京都府宮津市  
所在地 京都府宮津市須津 797  
設立年 2006 年  
会員数 30 名  
連絡先 0772-46-4943、toyomi55@beige.ocn.ne.jp  
Facebook



### 夏原グラントで実施した事業の紹介

日本三景の一つ天橋立の内海「阿蘇海」は、堆積するへどろにより泳げない、魚が棲めない海になっています。このへどろを経済的に除去する方策を探すなかで、へどろが非常に優れた吸湿/放湿特性を持ち、それを利用すると蒸気吸着式ヒートポンプが作れることを見付けました。本事業では太陽熱回収用のデモ機を作製しました。

### 環境や地域への貢献

へどろが海を汚すのは表層に沈積する有機物が分解するからで、表層数 cm を常にヒートポンプの吸着材として利用すれば、自浄作用が回復し、美しい阿蘇海は自ずと蘇ると考えます。また、ヒートポンプは建屋・道路などの熱回収に利用すれば、優れた温暖化対策になると考えます。

### 助成金が活きたと思う点

私たちは一方で生ごみ循環システム「エコの環」を、高齢者事業として回しています。しかし自立するまでに至っておらず、金銭的余裕が少なく、ヒートポンプには手が回らない状態が続いていました。しかし助成金のお陰でデモ機を作ることができ、今後は啓発活動に力を注いでいきたいと考えています。

## 京都・美山千年の川プロジェクト～命溢れる川づくり～

特定非営利活動法人 芦生自然学校

活動場所 京都府南丹市美山町芦生  
所在地 京都府南丹市美山町芦生スケ尻 14-2  
設立年 2004 年 9 月  
会員数 20 名  
連絡先 HP Facebook



### 夏原グラントで実施した事業の紹介

この事業は芦生の森を源流とする通称美山川を千年先に受け継ぐ事を目的とした事業です。河川環境の悪化が叫ばれる中、本当に悪化しているのか？またその原因は？を明らかにし魚たちが住みよい川作りのための保全方法を実験、検証する取り組みです。今年度は台風で中止になりましたが、地域の川の文化を掘り起こし、文化資源を記録発信する資源調査とより多くの方が川と親しむために必要な指導者の育成も行います。

### 環境や地域への貢献

まず、美山川には昔どんな魚がいて、今どんな種類の魚がどれくらい存在しているのか？それすら分からない状態でしたので、まずは指標となる基礎データを作り出すという活動を始めました。対象魚をしほり、産卵場所、越冬場所、定点での個体数カウント、生態などを調査したこと、地域の方からの聞き取り調査から現在の美山川の状態やかつての違いが浮き彫りになったことは、これから取り組む実質的な保全活動への大きな一歩となりました。

### 助成金が活きたと思う点

地域住民の多くの方が、美山川が悪くなっているという声をあげていました。しかし、川の生態調査を行うことでは研究者でもなければ生活していけません。しかし助成金を生かして活動を始めることで協力者や様々なつながりが生まれ、1人が沢山する事ではどうにもならないことでも、沢山の人が少しずつ関わることで川の保全ができるのではないかと、という明るい希望を感じています。誰かがしてくれたらいいのに、という想いを実際に行動におこし取り組み始められた事が何よりも大きな成果だと感じています。

\* HP Facebook Twitter : 団体としてサイトやアカウントを持っている印 (団体名で検索)

**市民共同発電所「おひさま発電所」** 認定特定非営利活動法人 **きょうとグリーンファンド**  
**設置施設と共に進める環境学習**

活動場所 京都府京都市  
 所在地 京都府京都市下京区五条高倉角堺町 21  
 事務機のウエダビル 206  
 設立年 2000 年  
 会員数 72 名  
 連絡先 T&F:075-352-9150、info@kyoto-gf.org  
 HP Facebook

**夏原グラントで実施した事業の紹介**

保育園、幼稚園、児童館で子どもたちを対象に環境学習として、環境腹話術、自然観察会を実施しました。自然観察会は京都御苑や園庭で実施し、子どもたちが身近な自然を五感で感じる機会となりました。また職員、保護者を対象に温暖化についての講義とワークショップを実施しました。

**環境や地域への貢献**

子どもたちは環境腹話術の話から日常生活での省エネを実践するようになり、家庭への波及効果が見られたということでした。職員・保護者研修では温暖化の現状を知り、一人ひとりの省エネの取り組みの大切さを再認識、参加者同士、各家庭での取り組みを発表。意見を交換することで実践への期待がうまれました。地域の保育園、幼稚園、児童館など複数の施設で実施したことで、地域全体に環境意識が広がりつつあるようです。

**助成金が活きたと思う点**

「おひさま発電所」設置施設の中で環境学習から遠ざかっていた施設、及び設置していない施設に呼びかけて、環境学習を実施することができました。設置施設では環境への意識を再認識できました。設置していない施設とは環境学習を通じて関係ができ、「おひさま発電所」設置も期待できます。



新規採択事業の紹介

**森のようちえん おやこの会** 森のようちえん **どろんこ園**

活動場所 京都市左京区 宝ヶ池公園  
 所在地 京都市左京区八瀬近衛町 723 - 48  
 設立年 2011 年  
 会員数 スタッフ数 6 名、参加親子数 32 組  
 連絡先 doronko\_en@yahoo.co.jp  
 HP Facebook   
 ※ 2018 年度から一般社団法人化

**夏原グラントで実施した事業の紹介**

自然の中での子育てを支援する「森のようちえんどろんこ園」の活動をたくさんの方に体験していただくため、入園前の親子を対象とした「おやこクラス」を発足しました。地域力が衰え子育てが孤立化するなか、自然の中でのおびのびと子育てをしたいが、どうしたらいいかわからないというお母さんが、子どもと共に野外へ一歩踏み出す手助けになればと願い活動しています。月に 1～2 回の森遊び、夏場の川遊びに加え、年間 5 回の子育て講座を開催。多数の親子から「自然と触れ合い、植物や虫などに興味が広がり、親子で楽しめた。」等の感想をいただきました。

**環境や地域への貢献**

活動場所である京都宝ヶ池公園は、山と大きな池や川もある、地域に開かれた自然豊かな市民の憩いの場ですが、ゴミが多いことが残念です。年間を通じ森に入るなかで、環境を守りたいと、自然発生的にゴミ拾いが始まりました。今後もゴミ拾い活動を定期的に続けていきたいと思っています。

**助成金が活きたと思う点**

チラシや HP 広報。講座の開催。スタッフの確保等ができ、活動が充実しました。



**北山保全活動** 特定非営利活動法人 **国際ボランティア学生協会 IVUSA 京都**

活動場所 京都府京都市北区衣笠山・左大文字山  
 所在地 〒569-1121  
 大阪府高槻市真上町 1 丁目 1-18 Insist21-3B  
 設立年 1993 年 1 月 (法人格取得 2002 年 5 月)  
 会員数 約 4000 名 (衣笠支部: 約 200 名)  
 連絡先 T&F:072-601-5109、kinugasaivusa@gmail.com  
 HP Facebook Twitter

**夏原グラントで実施した事業の紹介**

当協会では、所属学生の学び舎である「立命館大学京都衣笠キャンパス」の裏山で、鹿苑寺金閣の借景でもある「衣笠山・左大文字山 (通称「北山」)」にて活動を行っています。この活動では、京都北山の景観保全の一途となることを目的として、学生たちが松くい虫被害蔓延によるアカマツ林の衰退に歯止めをかけるべく、枯れた松の撤去やアカマツ再生に向けた取り組みを行っています。

**環境や地域への貢献**

京都市を囲む山々は、「山紫水明」の京都らしい景観を織りなしています。しかし、かつて山々の象徴的な樹木であった「アカマツ」は近年突如として枯れはじめ、急速に姿を消しています。また、「アカマツ」は「五山送り火」でも使われていることから、京都の文化を守る上でもその保護はとても重要であるといえます。そこで、当活動では枯れたアカマツの撤去やアカマツ再生に向けた取り組みを通じてアカマツ林の衰退に歯止めをかけ、京都北山の美しい景観保全に貢献します。

**助成金が活きたと思う点**

助成していただく以前は、倉庫がある高槻京都間での装備品運搬がとても負担となっていました。しかし、助成していただいたお金でヘルメットやノコギリ等の装備品を購入したことで、活動をより円滑に行うことが可能になりました。

